

人と人をつないで 地域の困りごとを解決

家事や子どもの預かりから話し相手まで
地域に眠る人材を活用



ボランティアグループ「じえねじえね」代表 岡村紘さん

地域のお助け隊「よろず屋」

「グループを立ち上げたのは3年前。地域のために何かできないかという思いが半分、自分がやりたいという思いが半分で始めたんです」
そう話すのは、けやき坂地域でボランティアグループ「じえねじえね」を運営する岡村紘さん。同グループの代表を務めています。
「最初は保育園児が野菜を育てる手伝いや、地元の野菜を売る野菜市などをしていました。それに加えて昨年、日常生活の困りごとなどをサポートする『よろず屋』という取り組みを始めました」
「よろず屋」では、料理や洗濯、掃除といった家事手伝いや、散歩や通院などの外出の付き添いを実施。また、家電や水回りのメンテナンス、植木の手入れの他、服の仕立て直しや買い物時の子どもの預かりなど、さまざまな要望を受け付けています。
「定年退職して家にいる人の中には、せっかく仕事で培った技術を眠らせている人が結構いると思うんです。それを眠らせたままにしてしま

うなんて、もったいないじゃないですか。それに、定年を迎えてやることを見つからず、一気に老け込み半年で亡くなったという人も見てきました。地域の中で、何か手助けして欲しいと思っっている人とならば、お互いにとってプラスになるんじゃないかと考えたんです」
「全ての世代の人が支え合う」
「じえねじえね」はジェネラルジェネレーションの頭文字をとったもの。けやき坂地域に住む、全ての世代の人を対象に活動しようという思いが込められています。

「今、有償ボランティアとして登録してくれている人が7人。男性が2人しかいないので、力仕事や高所作業などの調整に苦労することが多いですね。また、サービスを受けたい登録者が約10人と、まだまだ少ないですが、これからだと思っています」と岡村さんは話します。
「年間100件ぐらいの依頼が来るようになるのが理想です。そのためには、支援する側とされる側どちらももっとたくさんの方に登録してもらうことが必要だと考えています。チラシも各戸配布していますので、気軽に連絡してもらえればと思います」



新タマネギと鶏肉の甘辛煮

とろりと甘い旬の味

食と育つ

保健センター
☎(758)4721

レシピ 保健センター栄養士

- 材料 2人分
 - 鶏モモ肉 120g
 - 新タマネギ 300g (中2個)
 - ニンジン 40g
 - 酒 小さじ2
 - 濃口しょうゆ 大さじ1
 - みりん 大さじ1
- 熱量 (おとな1人分) : 203kcal、塩分 : 1.6g

●作り方

- 1 鶏モモ肉は2~3等分に切り、酒をふる。
- 2 新タマネギは根元の芯を残したまま、6~8等分のくし切りにする。ニンジンは皮をむいて、一口大の乱切りにする。
- 3 鍋にニンジンと水80ccを入れ、落としぶたをして弱火で5分ほど煮る。
- 4 鶏モモ肉と新タマネギを③に入れ、濃口しょうゆとみりんを加え、落としぶたをして10分ほど煮る(途中で鍋を揺すり、煮汁を全体に絡ませる)。

POINT 普通のタマネギを使う場合は、水を少し多めにしてください。添え野菜はお好みで。

消費生活センターだより

消費生活センター
☎(740)1167

健康食品・化粧品のネット販売

お試しのつもりが定期購入だった
電話が繋がらず解約できない

事例 スマートフォンで「今なら30日分が実質無料! 初回送料500円だけの負担」という酵素飲料の広告を見た。ダイエット効果を期待して、試しに飲もうと思い注文した。商品が届き500円を払ったら、数日して同じ商品がまた届いた。びっくりしてサイトを見ると「定期コース」「2回目以降30% OFFの5,880円」「いつでも好きな時に解約できます」とあった。解約しようとして何度か電話したが、混み合っていて繋がらなかった。仕方なくメールで解約したいと送ると「電話でしか解約を受けていない。すでに3回目の発送準備に入っているの、それを受け取った後で電話をかけて欲しい」と返信が来た。お試しだけでやめたい。(50歳代 女性)

インターネットの広告を見て、健康食品や化粧品などを安く買えると思い注文したところ、実際は複数回の購入が条件の定期購入だったという相談が多く寄せられています。

最近では事例のように、いつでもやめられると書いてあるのに「電話が混み合っていて繋がらない」「解約受付期間が極端に短い」「手続きが煩雑で解約ができない」など、なかなか解約できないといった苦情も増えています。また、解約できないまま放っていたら、弁護士事務所から督促状が届いたという相談もあります。

困ったらそのまま放置せず、消費生活センターに相談してください。ネット通販はクーリング・オフできません。「初回」「お試し」というような表示の場合、定期購入が条件になっていることがあります。注文前に購入の条件、中途解約や返品はできるのか、よく確認しましょう。

生きる

人権推進課
☎(740)1150

誰もが高校受験できるようサポート

人権を考えるきっかけになったのは
高校受験を控えたある生徒との出会い

今回から、コラムを担当することになりました矢野端です。これまで、部落差別や障がい者差別など、川西市で人権問題に関わって約30年。教員として、また行政職員として経験したことを伝えていけたらと思いますので、よろしく申し上げます。

私が教師として、清和台中学校の教壇に立っていたのは44年前。高校新設市民協議会の一員として、高校受験のあり方を考えていました。人口も増え、市内では緑台、明峰、北陵と、次々と新たな高校が誕生していた時代。その時に出会ったのが、高校受験を控えたある生徒でした。

彼女は目が全く見えません。東谷中学校に通い、他の生徒と同じように生活していましたが、受験となると話は別です。試験に使われる問題用紙が見えないのです。

進路保障の取り組みとしては初めての経験でしたが、市民団体と一緒に県教育委員会にお願いし、受験方法を模索。結果、点字を使った試験が受けられ、高校に進学することができたのです。彼女は高校卒業後音楽大学に進学し、現在はソプラノ歌手として活躍。人権講演会で講演も行っています。

その後も、弱視の生徒に大きな字で書かれた問題用紙を用意するように働きかけるなど、誰もが受験の機会を得られるように活動を続けました。目が見えなくてもやり方を変えれば、平等に受験ができ、夢をかなえることができる。そう感じたのが、人権を考えるようになった最初のきっかけでした。

数年後、当時社会問題でもあった同和教育問題に関わることになったのですが、それはまた次回お話しします。

(緑台小学校区人権啓発推進委員会委員長 矢野端)

市政情報

求人・募集
発表・鑑賞

案内・催し
中央図書館

公民館

ごみ
カレンダー

セミナー
スポーツ

健康

相談の案内

高齢者
福祉

子育て

コラム

ニュース